

母の遺言

東京府

大代

和子

私達四人姉妹の旅は、20年近く続いています。長女と私は東京で、次女と三女は奈良で各々の生活を営んでいます。1年に1度、皆で集まり旅行や食事をしたりして、楽しいひとときを過ごしています。私たちが仲良く集えるようになったのは、母の遺言のお陰です。母は亡くなる前に「わずかばかりのお金を残します。分配すれば、すぐ無くなってしまいますので、元氣な内に姉妹仲良く集まり合って旅行を楽しんだり、美味しい物でも食べて私の事を思い出して頂戴」というものでした。私たちは母の遺言通り、毎年一度は集まり合い、母の残してくれたお金を大切に、大切にに使わせていただいています。そして今年は何故か、真夏の京都へ。会えば童心に返って話題はつきません。母との思い出話にも花が咲き、私が「母が作ってくれた「うどん」が美味しかったね」といえば、皆で鏝を削って手伝ったことを思い出し、お昼は麺にしよう全員一致で可決。猛暑の中、やっと見つけた麺のお店に飛び込んで、熱いうどんを頼みました。母の作ってくれた暑い日の熱いうどん、汗をふきながら、フーフーって食べた思い出が甦ってきます。

蒲鉾と玉子としいたけ、まるで母と一緒に！

関西育ちの母の味、削り節の香りと出し汁が何とも美味しかった……。まるで、あの頃を再現したような懐かしさが舌に残るこの味。目を閉じれば、いつも笑っていた母の顔が浮かびます。やっと、懐かしい母の味に出会うことが出来た喜びを、そっと抱いて帰ることが出来ました。

71才の長女を筆頭に66才の末っ子の私までに4人の姉妹。どうか、来年も元気で4人揃って再会できますように……。

奨励賞